

2007 年度

科目名	対象学科・学年 文学部文財1回生	担当者
文化財科学Ⅱ（保存科学）		内田 俊秀
授業テーマ 文化財の自然科学的研究と保存方法——その目的、技術と歴史——		
授業の概要と目標 文化財の研究手法は、人文科学的なもの他に自然科学的なものもあります。近年、この自然科学的方法が多くの成果を上げています。また、貴重な文化財を残そうとする動きも、ユネスコなどを中心に世界各地で活発に行われており、それにも科学的方法は、威力を発揮しています。これらの紹介をとおして、研究や保存の意義を知ることが目標とします。		
評価方法 試験		
テキスト なし。その都度コピーを渡します。	著者	出版社
参考書 文化財保存科学ノート 文化財のための保存科学入門	著者 沢田正昭 京都造形芸術大学編	出版社 近未来社 角川書店
授業スケジュール・内容 1) 文化財保存の考え方(1)-----西洋の考え方 2) 文化財保存の考え方(2) -----日本の考え方 3) 出土木製品の保存 4) 出土木製品の保存 5) 出土金属製品の保存 6) 出土金属製品の保存 7) 金属を作る技術(1) 8) 金属を作る技術(2) 9) 糊と水と刷毛 10) 石の文化財の保存 11) 外国の保存処理の例(1) 12) 外国の保存処理の例(2) 13) 街なみの保存 14) 文化財の防災 15) 試験		
西洋は今のまま残す 日本は滅びの美学 現在の木材との違い 保存処理とは 錆と金属 金属の保存処理 弥生時代から中世まで 中世から江戸時代まで 日本の伝統的修復技術はシンプル 磨崖仏は大地とつながっている イギリスなどの例 イタリアなどの例 伝統的な街なみ、美しい街なみ 地震から文化財を守る		
以上		